

## ●朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)

### 第13回平壤秋期国際商品展示会開催

2017年10月11日付『朝鮮新報』によれば、同年9月25～28日、平壤市の三大革命展示館で第13回平壤秋期国際商品展

示会が開催された。同展示会には、北朝鮮国内の企業の他、シリア、中国、キューバ、イラン、イタリア、インドネシア、ベトナム、台湾をはじめとする各国、地域から250余の会社が出展した。参観者は1日あたり2万名を超えたそうだ。

### 洗浦地区畜産基地が竣工

2017年10月28日付『朝鮮新報』によれば、2012年12月から建設が行われていた、江原道洗浦郡、平康郡、伊川郡にまたがる洗浦地区の畜産基地が竣工した。同年10月27日には、朴奉珠内閣総理をは

はじめとする政府と党の首脳が集まり、竣工式が挙行された。

### 内閣全国会議拡大会議開催

2017年11月7日付『朝鮮新報』によれば、内閣全国会議拡大会議が開催された。同会議では、人民経済の自立性と主体性を高めることが議論された。議論の中で、人民経済の主体化をより一層完成し、軽工業部門の生産を活性化するうえで最も切実で重大な科学技術問題と、多収獲優良品種の種子を解決し、党の科学農業の方針を貫徹して人民の食糧問題を円満に解決するために、科学研究力量と科学研究資金を集中する問題が討議されたとのことである。

### 第8回軍需工業大会開催

2017年12月12日発および13日発『朝鮮中央通信』は、同月11～12日、平壤で金正恩国務委員長の参席の下に、第8回軍需工業大会が開催されたことを伝えた。同通信は、この会議に関連して、「敬愛する最高指導者同志は、わが党と生死運命を一緒にしながら並進路線の貫徹のために、国家核武力建設の完成のために、英雄的に闘争してきた軍需工業部門の科学者、技術者、労働者と活動家たち、そしてベルトを締めながら党の国防工業重視路線を絶対的に支持して国防工業部門を物心両面で支援した全国の全人民に再び熱い感謝を送った。」と報道している。

### 朝鮮労働党第5回細胞委員長大会開催

2017年12月22日、23日、24日発『朝鮮中央通信』は、同月21～23日、平壤で金正恩朝鮮労働党委員長の参席の下に、

朝鮮労働党第5回細胞委員長大会が開催されたことを伝えた。

この会議は、朝鮮労働党の基層組織の過去5年間の活動の総括を行う会議で、閉会の辞で金正恩委員長は、「党政策貫徹の直接的戦闘単位である党細胞を強化し、党の指導的役割を高め、革命と建設における高揚を成し遂げていくことは、朝鮮労働党の伝統的な闘争方式」としながら、「わが党は、今後もこの伝統を変わず受け継いでいくものであり、党細胞を重視し、強化するための事業に引き続き大きな力を入れる」と話したことを伝えている。

### 「新年の辞」

2018年1月1日、朝鮮中央テレビで、金正恩朝鮮労働党委員長による「新年の辞」の放送があった。今年の新年の辞のスローガンは、「革命的な総攻勢で社会主義強国建設のすべての戦線において新たな勝利を勝ち取る」である。

昨年について、金正恩委員長は「自力自強の動力で社会主義強国建設史に不滅の里程碑を記した英雄的闘争と偉大な勝利の年であった」と定義し、国際的な制裁の中で、「党は人民を信じ、人民は党を決死擁衛し、逆境を順境に、禍を福に転換し、社会主義強国建設のすべての戦線でめざましい成果を成し遂げた」としている。具体的には、国家核武力完成の歴史的偉業を成し遂げたことであり、この核武力は「米国のどのような核の脅威も粉碎し、対応することができ、米国が冒険的な火遊びをできないように制圧する強力な抑止力となる」としている。また、経済建設については「昨年、国家経済発展5カ年戦略遂行においても大きな前進を成し遂げた」とし、

金属部門における金策製鉄連合企業所の酸素熱法溶鉱炉の完成、紡績と履物、織績、食料工業をはじめとする軽工業、機械工業における自主開発のトラクターとトラックの大量生産成功、黎明通りや洗浦地区の畜産基地の竣工などを例として挙げている。

今年の目標については「栄光ある朝鮮民主主義人民共和国総研70周年を迎える」としている。具体的には「国家経済発展5カ年戦略遂行の3年目の年である今年に、経済戦線全般において活性化の突破口を開かなければならない」とし、「党中央委員会第7期第2回全国会議が提示した革命的対応戦略の要求通り、人民経済の自立性と主体性を強化し、人民生活を改善し、向上させることである」としている。

具体的に注力する部門は昨年と同様、「電力と金属、化学工業部門」であり、そのあとに機械工業、石炭工業、鉱物生産、鉄道運輸部門が例示されている。その次に軽工業と農業、水産業が例示されている。

南北関係については、関係の改善に対する意欲を直接的に述べていることである。北の建国70周年と南の平昌オリンピックを同列に並べ、どちらも「意義深い年」と規定している。そして、南北関係の改善を南北の「共同で努力」することを呼びかけている。朝鮮半島問題を民族内部の問題として処理しようとする姿勢は以前から変わっておらず、その点では新味はないが、平昌オリンピックの成功を願い、同大会への参加に関して積極的に対話を呼びかけている。

ERINA 調査研究部主任研究員  
三村光弘